



環境学習の第一歩

# イバラトミヨ塾

## イバラトミヨ保全池って？

ほせんいけ

新庄市野中・中川原地区では、平成8年から平成17年にかけて、田んぼや畑の区画を整理する県営ほ場整備事業が行われた。事業中の生き物調査で、山形県が準絶滅危惧種に指定したイバラトミヨが発見された。イバラトミヨは日本でも5道県でしか生息しておらず、非常に希少な生き物なのだ。そんなイバラトミヨを保護するために同事業で保全池の造成が行われた。保全池は、農業用排水の水系とは別に地下水のみを取り入れて水温の安定と外敵の侵入を防ぐ工夫をしている。

## イバラトミヨ塾について

平成18年に発足したイバラトミヨ保全協議会は、自分たちが住む地域に希少な生き物が住んでいる環境の重要性を知ってもらおうと、「イバラトミヨ塾」という環境学習会を年4回、春夏秋冬の時期に地元の新庄市立北辰小学校4年生を対象に開催している。塾では、保全池や地域を流れる指首野川を活動範囲とし、水域に生息している生き物の観察を通して河川環境を学んでいる。

平成20年からはじまり今年で13年目となるイバラトミヨ塾だが、北辰小学校が来年度から沼田小学校と統合することから、北辰小学校としての塾は今年で幕を閉じる。統合後も塾の継続は考えており、統合により多くの生徒を塾生として迎えられることから、環境保全の大切さを広く知ってもらおうきをつけたい。



イバラトミヨ保全池 (R2. 6. 11 撮影)

春 夏 秋 冬 のイバラトミヨ塾

保全池のまわりの植物の学習。池の外を植物を駆除するお手伝い。



秋

イバラトミヨの生態と保全池の役割について学習。



春

1年間の塾のまとめをし、保全池でイバラトミヨを捕獲。

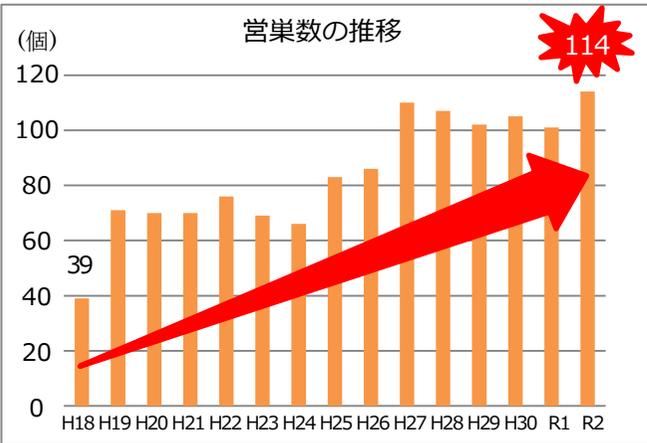


冬

学校の近くを流れる指首野川に棲む生き物を調査。イバラトミヨを発見！



夏



**イバラトミヨ塾の活動成果**  
 左の表は毎年6月下旬ごろに行われている、保全池内のイバラトミヨの営巣調査の結果をまとめたもの。専門家の指導や営巣期を見越した草刈り等の環境整備により、営巣数は次第に増えてきている。保全池造成から15年となる今年の調査では、営巣数は過去最多の114個となり、当初の約3倍となった。



水草を集めて作った巣



イバラトミヨ(オス)



イバラトミヨ(メス)

**イバラトミヨの特徴**  
 背びれの一部がトゲのようになっていて、イバラトミヨと呼ばれる。オスの体はメスに比べて色が黒っぽく、繁殖期になるとオスは求愛のダンスをしてメスを誘う。一番の特徴は水草などでピンポン玉くらいの巣を作ること。オスはメスが産卵すると稚魚が孵化するまでのおよそ10日間、24時間体制で巣を外敵から守る。